

献呈の辞

このたび、わが敬愛する篠崎 武先生が定年を迎えられ、専任教授を退かれることになりました。ご退任記念号の発刊にあたり、ここに献呈の辞をしたためますことは、私にとって、まことに光栄と存ずるものであります。しかしまた、同時に寂しさの窮みでもございます。

先生は、明治大学におきましては、昭和二十三年商学部においてすでに教鞭をとられておりましたが、経営学部創設と同時に、助教授として経営学部の教育・研究の任にあたられることになり、昭和二十九年教授就任を経て、以来今日にいたるまで、一貫して学部教育、研究の推進に、また、明治大学の発展に尽くされて来られました。

この間、先生は、一般教育主任、連合教授会・学部教授会規定作成委員、学生部長、和泉委員会委員長、体育会委員等、学部や大学の要職を歴任され、多大の貢献をなされました。

私が、教務主任、学科長、学部長としてすごして来たここ十数年の間、先生には、学部教育行政にからまる役職や職務につき、お引受けいただけるのに甘えて、御無理と存じつつ、つつい、次々とお願ひし、また一旦お引受けいただけた仕事には、絶大な熱意と関心をもつ

て遂行いただけたこと、学部執行部として、また、私個人として、申訳なく、また感謝に絶えないところでございます。ここに、改めて、心より深謝の意を表したいと存じます。

先生は、研究面におきましては、弁証法論理学そのものとこれを圍繞する学問に関する著書・論文、さらに倫理学関係の著作・論稿など数多く公にされており、弁証法学者として斯学会の重鎮として活躍されて来られました。今後も、後進のため、なお先導の御役をいただきますよう御願ひ申し上げます。

先生の教育・研究に関する積年のご尽力に対し、改めて、心から厚く御礼申上げるとともに、多年のご功績に対し心より敬意を表するものであります。あわせて、謹んで先生の御健勝をお祈りいたします。

明治大学経営学部長

蘭 出 碩 也